

て、毎日曆に○をつけているのです。

「××子、幼稚園になんていかなくてもいいね、こんなに毎日たくさんお友達が来ていつしよに歌もうたえるんだから」

「いやよ、だつておべんとうないもの、家には運動会も遠足もお遊戯もないもの」

私が本気で言つてると思つて、子供はびつくりしたように私をにらみます。

「そうね、やつぱりいこうね、もつともつと大勢のお友だちがいるからね」

私も、もうそろそろおべんとうや草履袋を買つてやらなければなりません。

スカートも靴もそろえなければなりません。なんとなく、それも子供と同じように嬉しいことの一つになつて幼稚園の入園を待たれる世の當の母親の一人です。

子供が幼稚園に入つたら、みんなと仲よく楽しくおもしろい遊びでくるとそれでもいいと願いつつ。

(福島市 渡利舟場十五)

## 幼稚園に望む

— 家庭から —

大熊米子

幼稚園にのぞむ、と云う題を頂いて、私は今更に、私共親子の幸を、深く思い返さなければ居られません。それは、母親の、心の故郷とも云うべき母校で、母親の恩師います幼稚園で、三人の吾子が皆揃つて、大切な幼児期を、次々過ぎて頂きまして、今日末の子がそこを巣立たせて頂いたのをございます。家庭から幼稚園への希望というものは、すべて叶えられ……いえ、母親は、何を幼稚園に希望する暇もなく、吾子には、次々素晴らしい環境が与えられてゆきました。幸福な母親は、ただ、其のすべてに、いつも後から子供の喜びと共に、喜び感謝して居る有様だからでございます。

でも、私は与えられた題に対して、責を負わねばなりません。私は今此処で、吾子三人の幼稚園生活の中で、特に有難く感じた事どもを、思い出して「母親から幼稚園にのぞむ」

事に代え度いと存じます。拙い文で、聊か私事を書き連ねます事を、お許し願います。

長女正子は、昭和二十一年四月の入園、言葉をかえて申しますなら、終戦直後の、非常時の中に入園致しました。人手はなし、物はなし、回覧板で「明日はお芋の配給」とでも申されますと、隣組は揃つて行列に続かねばなりません。送り迎えを原則と致します此の幼稚園では、やむなく、子供をお休みさせるという事になります。今考えましても、屢々親の事故で欠席させました長女には、可哀想だつたと、至らぬ親は心が責められます。然し、其の、生活の御都合主義にさいなまれる子供の心を、温く救つて下さつたのは、幼稚園の継続的なお仕事でした。材料不自由の中から、先生は次々と工夫され、空箱やら、古薬書やらで、或時は動物園、或時は玩具屋さんごっこ、と、正子は、いつ幼稚園に行つても、楽しい目標の中に溶け込む事が出来ました。

それに、やむなくお休みした日でも、家にあつて、心の中に、楽しい幼稚園のお仕事を、温ためて持つて居る事が出来ました。お休みして、知らないお歌を、お友達が歌つても、自分だけお習いしなかつたお遊戯があつても、一つのお仕事に力を合せて居る、親しい気持では、そんな事は、お友達の口もとをみながら、手ぶりをしながら、子供心には、案外こたわりなく、追付いて行けるようでした。幼稚園にも、吾子

にも、済まない済まない、毎日思いくらした私の心に、継続的なお仕事とは、何と有難いものだらう……と、しみじみ感じたものでした。

長男一郎は、よく申せばおとなしいのですが、正直に云えば、親の慾目で見ても、ぼーつとして居て、頼りない子供でした。三年保育から幼稚園に入れて頂きましたが、二年経つても、一向ぴんともばつともして参りません。お友達が何をして居ても、気にならない。

何に対しても、積極的な興味を示さない。歯がゆい子供でした。此の儘、学令期を迎えるのかしら、と、私はひそかな心配を心のすみに感じて居りました。其の頃幼稚園では、リズム遊びとして、いろいろな劇形式の遊びをして居りました。配役は、其の都度子供の希望で、誰でも、何の役にでもなれる様になつて居りました。一郎は何となく浦島太郎が気に入つたらしく、それでも、一向上手にもならず、度々此の劇遊びをして居ります間に、何となく、此の浦島太郎にはまつてしまつたらしいのです。何と、劇の主役です。敢て、此の劇の時からとは申しませんが、此の頃から、一郎は目に見えて潑瀾として参りました。適度の優越感と自信、そんなものが、一郎の心の中に芳生えたのではないでしようか。

子供の自然の遊びの形態では、能力のある子供が、いつでも優位を占めやすい。其処を、先生は、実に美事に捌いて下

さつたのでした。誰でも、何の役でも同じに出来る……一郎も、お友達と同じ事が出来る、と云う自信と、想像力から来る優越感が、一郎を脱皮させた様でした。私は、次第に變つて行く吾子を、どんなにか、心嬉しく眺めた事でございましょう。適当な時期に、適当な環境を、個々に与えて下さる、本当に周到な御計画に唯々私は頭が下るばかりでした。個々に、と申せば此の幼稚園では「皆さん」と云うお呼びかけを殆んど伺つた事がありません。いつも、太郎さん、であり、花子さん、であります。ですから子供は、いつも先生と一対一の氣分で、家庭で親と居る時と同じに、心おきな生活の場と思つて居る様です。斯うして何処までも、個々の芳生えを尊重して下さる一方では、子供は、幼稚園社会の構成分子の一人であると言ふ事を、いつの間にか泌みこませて頂いて居ります。末つ子の甘えん坊で、家庭では、我儘が目につきます次女が「お外ならぶらんこ、おままごとなら、お母様で遊ぶのが一番好き……でも、いつも自分の好きな事許りして居たら皆が可哀想でしょ？ だからいつもかわつて上げるのよ」と、さもさも弁えた風に申します。斯う云う事は幼稚園以外の、どこで身につけて頂けましょう。個人と社会との妙なるハーモニーを知らず知らず弁えさせて頂く事は、何にも替へ難いと存じます。

又此の次女は、少々依固地で非社交性のある子供でした。

末の女のせいにか、家に居りますと、親が氣を付けて居る筈でも、お天下降の存在になり易うございませう。それが禍致しましてか、入園当初はなかなか素直にお友達のお遊びに溶け込めず、そんな不満があつてのせいにか、今迄に無かつた、指をしゃぶる癖が現れました。私は早速二組のミトンを拵えまして、一組は宅に、一組は先生にお預け致しまして、若しお指をしゃぶつたらすぐ手袋をはめますよ、と云うことを和子に嚴重に申し渡しました。其後、おや、もう！ とか、あら、又！ とかの波こそございませうが、何時の間にか手袋は不要になりました。と同時に、お友達遊びも、だんだんに打落けて出来る様になりました。……と、之は実に本来あべこべの話しで、実は先生は此の偏屈娘を、何とかして一日も早く遊べる子供にして下さるうと、手袋よりもそちらに重点をおいて頂いて居つたのでした。公衆の面前で手袋などはめられたら、嘸自尊心に恥じて……とひそかに北叟笑みましたのは猿智恵の浅はかさ……それで、あれこれ考えますと、どんな場合でも、「斯うしましょう」が先で、「斯うしてはいけません」と仰言る事は少い様です。ああ、それでこそ、子供は、自発的にのびのびと動ける様でした。「もの出しつ放しはいけません」……いえいえそこは「さあ、お片付けよ」と、先生なら仰言いませう。「お友達に意地悪や仲間外れをしては、はいけません」いえいえとんでもない。子供の世界は、

そんな暗いものではございません。「さあ、一緒に遊びましょう」……です。そして、先生も、身も心も一緒に遊んで下さるのです。之が、子供の樂園でなくて、何でございましょう。本当に幸な、子供達、斯くも周到な用意の下に、いかに、さり気ない風におかれて、子供達は、すくすくと伸びて行つて居ります。

扱、どうやら与えられた紙数も、残り少くなりました。最後に私は、親の為の御願いを記して、此の稿を終らせて頂き度いと存じます。それは、幼稚園では、子供を入園させて下さると同時に、親も入園させて頂き度いのでございます。折にふれ、事につけ、子供の問題を中心に、是非とも成人教育をして頂き度いのです。「吾子」というものは、全く曲者でございませぬ。どうしても冷静に、本質的なところが見えなものです。宅の○子は、宅の△夫は、どうしても特別なものとして、親の心の中に坐つてしまひます。そうした母親の弱点を、正しい方向に教え導いて頂けるのは、多くの子供達に日夜接して居られる、幼稚園の先生方において、他にはいらつしやらないと存じます。私共は、本当のよい意味の賢明な親になりたひのです。そうして幼稚園中の親子が、お一人の先生を囲んで身心共に理解し合ひ、結び合つた時こそ、私共の子供が、日本の子供が、更に更に、よい子たちになる日だと信じて居ります。

(中野区野方町一〇六三四)

### ▽おしらせ

次の二つの講習会は、今年の夏も開催の予定で目下準備中でございます。どうぞ、今年も皆様おいで下さいますようお願い致しております。

#### ▼認定講習会

授与単位 一般教育 二単位

専門教育 二単位

期 日 六月下旬より七月下旬まで

会 期 一講座 二〇〇人

#### ▼ゆづぎ講習会

講師 戸倉ハル先生

欧米御視察御帰朝後初めての御発表

期 日 七月二十一日——二十五日

午後一時——四時まで

詳細は当幼稚園内講習会係までお問合せ下さい

昭和二九年六月

お茶の水女子大学 附属幼稚園講習会係り

(東京都文京区大塚町三五)